

小林地区



ふれあいバス停 大成交通バス停 スワン号バス停 レインボーバス停

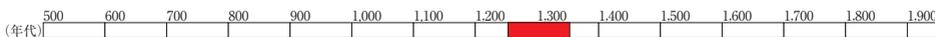
13 木造不動明王立像及び毘沙門天立像 2 軀

【指定年月日】 平成25年3月1日 【所在地】 小林1615(西福寺)

木造不動明王立像及び毘沙門天立像は、黒漆塗の割彫造で玉眼が嵌めこまれています。それぞれの像高は62cm・65.5cmです。

両像とも像内に仏師賢光の銘があり、迫力ある顔つき、動きのある身のこなし、厚みのある体などの特徴は、鎌倉時代の作風を示しています。

賢光の作例は、市内松崎多聞院の毘沙門天及び両脇侍立像、平賀来福寺の薬師如来坐像など当市を含めた下総及び上総地域での事例が知られています。



市指定有形文化財(歴史資料)

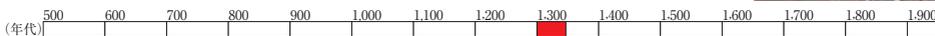
35 弥陀三尊下総型板碑 1 基

【指定年月日】 昭和57年8月5日 【所在地】 小林1841(光明寺)

この板碑は、黒雲母片岩製の幅広の下総型板碑で、長さ110cm、幅48cm、厚さ3cmです。表面の中心に阿彌陀如来、右に勢至菩薩、左に観音菩薩を象徴する種子と、それらの上に梵字が刻まれています。三尊の下には「極重悪人 無他方便 唯称念佛 曆応四年四月十日」の銘があります。

* 曆応4年は1341年

* 種子…仏を表す梵字の組み合わせ



市指定記念物(史跡)

46 道作古墳群(道作1号墳、4号墳、5号墳)

【指定年月日】 平成26年3月24日 【所在地】 小林字馬場2826-1、2826-5

道作古墳群は前方後円墳7基、円墳14基、方墳1基の合計22基から構成される群集墳です。特に全長46m、高さ4mの1号墳は、印旛沼西岸域で最大規模の古墳です。周溝部から下総型埴輪の破片が見つかり、築造は6世紀後半と考えられます。隣接する4号墳、5号墳は1号墳の陪塚と考えられ、被葬者同士の強い関係性が窺えます。

